

公表前のため取扱注意

第二期小平市子ども・子育て支援事業計画（素案）に対するパブリックコメントの実施結果

1 実施の概要

期 間	令和元年 11 月 20 日～12 月 19 日	
意見応募者数	17 人（女性 16 人、不明 1 人） （市内在住 16 人、市内で活動する法人または団体 1 人）	
提出方法	持参	11 人
	送付	—
	ファクシミリ	1 人
	メール	—
	市ホームページ	5 人

2 意見に対する対応状況

反映済み	4 件
反映する	1 件
一部反映	5 件
反映しない	1 件
参考意見	28 件
合計	39 件

3 意見等への対応

番号	意見等	検討結果	対応
保育園について			
1	保育施設が近年たくさんでき、利用する保護者も多いと思うが、子どもの日々の成長を直に見ることが少なく、保育施設での親育て（子どもへの対応等）として保育参観等ができると思う。	認可保育所では、保護者が参加する行事や保育参観を行っている園もあります。また、日々の保育の様子を基に、保護者に助言したり、保護者からの相談に対応したりしています。	参考意見
2	私立保育園、認証保育園の充実も考慮してほしいです。	保育施設の数の充実については、子ども・子育て支援事業計画に沿って、待機児童の状況、人口推計等を踏まえ、対策が必要な地域、年齢、施設規模等を勘案した効果的・効率的な整備を検討します。 また、保育施設の保育内容についても、引き続き、保育所保育指針などに沿った保育の充実が図られるよう支援していきます。	一部反映 【計画案 P.61,62】
3	保育園に入れるように募集人数を増やしてほしいと思うが、保育士の数も少なく、給料も低く、働く環境等で保育士になる人も少ないと思うので、保育士の労働環境や給料を見直して待機児童改善を検討してほしい。	保育士の処遇については、国の私立保育園における職員給与の是正を目的とした民間施設給与等改善費加算制度や、東京都の保育士等キャリアアップ補助金を活用し、賃金改善を図っています。また、保育士等用の宿舍の借上げを行う保育事業者に対して、借上げにかかる費用の一部を支援しています。待機児童の取組については2と同じ。	参考意見
4	保育園の申込みの基準指数について、就労の場合、休憩時間を含まない実労働時間での時間数で指数を決めているが、同じ勤務時間でも指数の差が出ている点で問題だと思う。職場に拘束される時間は同じなのに、1日15分休憩時間が長いだけで保育の必要度に差が出ているのはなぜか。実労働時間ではなく、職場にいないではならない勤務時間の長さで判断していただきたい。	保育園の選考基準は、勤務時間の長さだけでなく、外勤や自営業などの就労形態や収入、家庭の状況等を踏まえて、できるだけ公平となるように設定しています。なお、休憩時間は、労働とは異なり保護者の自由な時間であるため、勤務日数及び勤務時間を指標としています。引き続き、より公平な選考基準となるよう、必要に応じて見直しを行っていきます。	参考意見
5	翌年4月の職場復帰を前提に、保育園の申し込みをしているが、入園できなかった場合、認可外への申し込みや職場との再調整などに時間がかかるので、申し込みから合否通知までの期間をもう少し短くしていただけないか。	選考方法等の工夫など効率化を図りながら、選考期間の短縮に努めます。	参考意見

番号	意見等	検討結果	対応
6	子育て支援の活動をする中で、近隣に保育施設がないことや、発達障がいなどを心配してほかの子どもと比較し、悩んでいる方が増えているように思う。発達障がいについては、広場で発達段階等の話を伝えていくことができるが、保育施設については、「行政へ伝えますね」と言っている。私たちが説明できるようにしていただきたい。	認可保育所等の整備については2と同じ。整備等の計画、予定については、小平市子ども・子育て審議会に協議後、ホームページ等で公表しています。 子どもの発達の遅れへの心配については、主に、乳幼児健診での気づきや、心理発達相談、たいよう福祉センター及びあおぞら福祉センターの言語相談訓練のほか、障がい者支援課、子ども家庭支援センター（専門相談）において相談を受けています。また、白梅学園大学との連携による障がい児療育事業等を推進し、子どもと保護者の集まりの機会を提供しています。さらに、教育・子育て・福祉の部門の連携により相談しやすい環境の整備を目指す、発達支援相談拠点の機能を併せ持つ児童発達支援センターの整備を進めています。	一部反映 【計画案 P.61,62】 【計画案 P.59,79】
7	1歳児から入れる保育園が少ない。0歳から入れないと入れないことが多く、1～3月生まれの子には不利である。	0歳児と1歳児の定員の差や、1歳児からの入園に配慮した認可保育所や小規模保育事業等の定員構成について検討していきます。	一部反映 【計画案 P. 61,62】
預かりについて			
8	きょうだいを入れるのが難しくなるので、幼稚園の預かり保育も保育園の点数に入れてほしい。	保育園の選考基準は、就労形態や家庭の状況等を踏まえて、できるだけ公平となるように設定しています。引き続き、より公平な選考基準となるよう、必要に応じて見直しを行っていきます。	参考意見
9	一時預かりを行う保育園をもう少し増やしてほしい。	一時預かりについては、ニーズ調査の結果、量の見込み（ニーズ量）が前回と比較して減少していることなどから、現状では新規開設の予定はありませんが、引き続き利用状況等を注視していきます。	反映しない
10	保育園での一時預かりについて、電話を1時間かけてようやくつながったと思ったら希望の日に取れなかった、ということが数か月続いている。保育園に聞いたら「園の方針で減らしている」と言われたが、人数を減らしているならほかの園を希望するなどできるので、情報提供してほしい。	一時預かりの利用については、当日預かる子どもの年齢構成やそれに応じた保育体制等の状況により、変更となる場合もあります。一時預かりに関する情報を即時に細かに提供することは、現時点では困難ですが、引き続き利用方法の改善に向けた事業者との情報交換を行っていきます。	参考意見
11	一時保育について、2時間かけても電話がつながらず、やっとつながってもキャンセル待ちになってしまい、第二子の病院受診で上の子どもを預けたくても預けられず、予定がたてられない。電話での先着順ではなく、締切日までに電話・メール・FAXなどで希望を募り、抽選などにしていただきたい。	一時預かりの利用については、当日預かる子どもの年齢構成やそれに応じた保育体制等の状況も考慮しているため、抽選を行うことは考えていませんが、引き続き利用方法の改善に向けた事業者との情報交換を行っていきます。	参考意見

番号	意見等	検討結果	対応
12	ファミリー・サポート・センターのような子育て支援を、生後0か月～1歳くらいの間に、1回2～3時間くらい数回、無料で利用できる券などがあると、その後有料になってからも使いやすい。	ファミリー・サポート・センターは、市民同士の有償ボランティア活動であるため、利用料の補助は現在考えていませんが、引き続き提供会員の確保に努め、地域による子育て支援の促進を図っていきます。	参考意見
学童クラブについて			
13	学童クラブに長期休みの時だけ入所できるようにしてほしい。学童クラブに入れる枠も増やしてほしい。	現状の入会状況では、学校の長期休業期間のみの入所を行うことは困難です。放課後子ども教室や児童館、子ども広場など子どもの多様な居場所づくりに努めていきます。 学童クラブの入所枠については、これまでどおり、待機児童を出さないため、「学童クラブの設置に関する考え方について」に基づき、入会状況や今後の児童数の推移等を勘案しながら、必要に応じて増設などにより対応します。	一部反映 【計画案 P.72】
14	学童クラブの運営について、学校施設内だけではなく、保育ママさんの学童版みたいな、住宅地に家庭的な小規模なものを作れないものかと思う。	小平市では、学校施設内または隣接地に学童クラブを設置していますが、開所時間の拡大や子どもへの体験・活動の提供などのニーズが増大しており、子どもの多様な居場所として民設民営学童クラブなどについて検討していきます。	反映済み 【計画案 P.72】
子どもの居場所・学びの場の充実について			
15	元気村おがわ東にある子ども家庭支援センターくらいの0～3才向けの大きな遊び場がほしい。	市内には、子ども家庭支援センターの広場と同じように乳幼児のお子さんが遊べる広場として、子ども広場6か所と児童館3か所があります。	参考意見
16	不登校の子が通える場を花小金井方面に作ってほしい。元気村おがわ東では遠い。	教育支援室（あゆみ教室）は、心と体を安定させて学習するための施設であり、小平元気村おがわ東の地理的・周辺の状況から、関係者等に接触することが少なく、安心して通室することができます。廃校となった小学校施設を活用しており、在籍校復帰への手だての一つになるものと捉えています。	参考意見
17	公民館または公共施設に、子育て中の親子がお茶を飲みながら子どもを遊ばせられるような居場所を作ってほしい。高齢者用の喫茶店を兼ねた居場所はあるが、乳幼児連れおよび小中高生が気軽に行けるような場所がない。	現在、地域センターとさわやか館で、親子が遊んだり互いに交流したりできる子ども広場6か所とふれあい広場11か所を実施しています。また、中央公民館のロビーをはじめ、分館においても可能なかぎり、交流できるスペースを確保しています。 小中高生については、公民館において、学習室等に空きがある場合には、利用者の申し出により学習室として開放しています。また、地域センターの遊戯室やロビーは、小中高生が気軽に利用できるよう工夫しています。	参考意見

番号	意見等	検討結果	対応
18	児童館を増やしてほしい。難しいなら地域センターで良いので、小さな子どもが遊べるスペースをもっと増やしてほしい。公園も少なく、遊ぶ所がない。雨でも遊ぶ所がほしい。	小さな子どもが遊べる場については、地域的なバランスを図りながら、子ども広場6か所と児童館3か所を設置しています。また、児童館と連携し、子ども広場のない地域センターや公民館で出張児童館を実施しています。	反映済み 【計画案 P.64】
19	児童館や他の地域センターが遠いので、子育てふれあい広場の回数を増やしてほしい。	開催回数については、利用状況等を踏まえ、引き続き施設所管課と調整しながら検討していきます。	参考意見
20	御幸町地域にも児童館を作してほしい。交通の便が悪く、花小金井南児童館に行くには遠い。	18と同じ	参考意見
21	乳幼児が遊べる広場を増やしてほしい。	18と同じ	反映済み 【計画案 P.64】
22	家にあるおもちゃだと飽きてしまうので、子育てふれあい広場にはおもちゃがたくさんあって助かる。	今後も、環境整備に努めます。	参考意見
親と子の健康づくりの推進について			
23	「こんにちは赤ちゃん」は良い事業だとは思いますが、3か月健診のときなどに不妊治療について聞かれて嫌な思いをしたため、事業に関わる人の関わり方を改善してほしい。	妊婦の方や保護者が安心して妊娠・出産、子育てできるよう、改善に努めます。	参考意見
24	日時が決められている健康センターでの集団健診や予防接種の時に、上の子の託児があると助かる。	集団健診での上のお子さんの託児については、託児を実施する場所や保育人員等の課題があり現状では困難ですが、引き続き研究していきます。	参考意見
25	産後にすぐ利用できるケアセンター（子と母が日帰り、1泊できる施設）があると疲れた時に頼れる。	現在、産後ケアセンターを開設する予定はありませんが、安心して育児ができる環境の整備に努めます。	参考意見
幼児教育・保育の無償化について			
26	無償化で幼稚園にも補助が出るようになったが、もう少し出してもらえると嬉しい。また、補助金は前払いにしてもらいたい。1度支払ってから返金だと負担が変わらない。幼稚園に差額だけ支払うという方法でも構わない。	幼児教育・保育の無償化における国制度に係る部分については、保護者の負担軽減のため、令和2年4月から幼稚園への直接支給に改める予定です。これにより、保護者の支払いは、各幼稚園が定める毎月の保育料から国の定める補助上限額25,700円を差し引いた額となります。この差額等を対象として、各世帯の所得の状況に応じた補助金を市が支給していますが、補助額については、国や東京都、近隣市の動向や市の財政状況等を総合的に勘案して決定しています。	参考意見

番号	意見等	検討結果	対応
27	無償化の保育園のお金を前払いにしてほしい。	幼児教育・保育の無償化の開始に伴い、認可保育所等の利用者からの保育料徴収は行わないことになりました。一方、認可外保育施設においては、各施設が定める保育料を一旦支払っていただき、各世帯の所得等の状況に応じた補助金を市が支給していますが、前払いの手法について研究します。	参考意見
28	私立幼稚園の費用が無償化の金額より高いので、市の補助額を上げてほしい。	保護者の負担軽減のため、国の定める補助上限額 25,700 円に加え、各世帯の所得等の状況に応じて月額 9,700 円を上限に、市が保護者補助金を支給しています。この補助額については、国や東京都、近隣市の動向や市の財政状況等を総合的に勘案して決定しています。	参考意見
計画・情報の周知について			
29	計画素案を読んで、子ども広場や乳児家庭全戸訪問など、いろいろな取組があるのがわかった。ただ、そうした情報を親に伝えることが大切ではないかと思う。親子の知りたいことについての情報提供、広報などの方法を考えてほしい。	本計画を、策定後に関係者や関係団体へ周知するとともに、市報やホームページなどで公表し、広く市民に周知します。 子育てに関する情報については、引き続き「こだいら子育てガイド」やホームページ等の内容の充実を図るとともに、周知方法の工夫に努めます。	反映する 【計画案 P.82】
30	子育て支援の活動をする中で、「こだいら子育てガイド」には様々な情報があり、母子手帳発行時（健診時）にいただき良かったと聞いているが、ホームページがわかりにくいという声があった。	ホームページについては、当事者のご意見を受け止めながら、引き続き改善に努めます。	参考意見
その他について			
31	母子手帳を受け取った時にいただく 1 万円の祝い金はありがたいが、こども商品券は使いにくくて困る。違う方法にしてもらえたら助かる。	現在のところ、育児パッケージとしてこども商品券を配付しており、変更する予定はありません。有効期限は 5 年間ありますので、期限内での利用をお願いいたします。	参考意見
32	一橋学園にマタニティ・赤ちゃん用品の専門店がほしい。	市の所管外の事項です。	参考意見
33	子どもの医療費の負担を減らしてほしい。	市では、乳幼児医療費助成制度と、一部所得制限があるものの義務教育就学児医療費助成制度を実施しています。これらの医療費助成制度は、国及び東京都の法令等に基づき実施しており、市独自のさらなる軽減策については、国及び東京都の動向や他の子育て支援施策との関係、必要となる費用など、極めて慎重な検討が必要になります。	参考意見
34	医療費の負担を減らしてほしい	33 と同じ	参考意見

番号	意見等	検討結果	対応
35	スーパーにベビーカーで行くと、階段しかないお店や狭くて買物できないようなところもあって困ったことがあった。エレベーターやエスカレーターがあるといいなと思う。	市の所管外の事項です。	参考意見
36	鈴木町 1 丁目、回田町、御幸町近辺の子育て環境が不十分である。ファミリー向け住居がどんどん増えているにも関わらず、子育て環境は整っていない状況である。 ・花小金井駅周辺に保育園が集中しており、上記地域にはほとんどない。このため花小金井駅周辺の保育園を希望するしかない。市の他の地域に比べ、花小金井駅周辺の保育園の倍率が非常に高いのはこれが原因ではないか。 ・そもそも児童館がない。花小金井駅周辺ばかり充実している。 ・小児科が少ない。数少ない小児科もやや遠く、常に混雑している。 ・大通り以外の歩道が狭く、古い。コンクリートがひび割れている、人ひとりがやっと通れる程度の幅しかない道が多く危険である。	認可保育所等の整備については 2 と同じ。 児童館については 18 と同じ。 小児科については市の所管外の事項です。 歩道については、必要な補修は行っていますが、歩道の拡幅等が必要な路線については、沿道の土地利用の変化等の機会を捉え、調整しています。また、通行上支障がある電柱については、通行者の意見も参考にしながら可能な限り関係者に要望します。	一部反映 【計画案 P.61,62】 【計画案 P.64】
37	市内で 20 年冒険遊び場を開催し、子どもたちの外遊びを支援してきた。成長期の子どもに外遊びは欠かせないが、外遊びの場は失われ、ゲームの普及などから積極的に外遊びをしない子どもも増えている。近隣の国分寺市のほか、日野市、町田市、小金井市は市内に複数のプレーパークを常設している。小平市では議会で何度も取り上げられているにもかかわらず、いまだに取り組む気配がないのは残念である。早く常設の場所を用意し、大人が関われるように人件費を計上し、事業化するべきだ。たかの台の創価グラウンド跡地にできる公園、または鎌倉街道に予定している公園のどちらかをプレーパークにしてほしい。そして危機的な子どもを守り、成長に欠かせない環境を用意するべきである。 たかの台の方は、子育てカフェや子ども食堂など、積極的に市民が関わり、地域の子どもの居場所にする事ができる。こうした市民が誰でも利用できる場は、ネグレクトなど貧困と関係がある子どもにとっても平等に恩恵が届き、救いの場となりうる。行政は市民と協働して、より良い支援ができるように、場を提供していくべきである。	プレーパークについては、平成 23 年度に、きつねばら公園をプレーパーク用地として使用できるよう整備しました。プレーパークとして使用する場合の人件費（人の配置）に関するご要望は、個別の検討事項となります。 なお、今後整備を予定している公園については、子どもから大人まで安心して利用できる環境になるよう検討していきます。 子ども食堂については、市民活動や運営団体の自主性・自律性、熱意等を損なわないよう、市として後方支援を行っていくこととし、その他の「食を通じた子どもの貧困解消に資する取組」についても併せて、市の考え方を平成 31 年 3 月にとりまとめています。 子どもの居場所については、児童館や子ども広場を実施していますが、引き続き、乳幼児から就学児童まで、子どもの発達段階に応じた安全で安心に過ごすことができる場所・機会の充実を図ります。	参考意見

番号	意見等	検討結果	対応
38	市民スポーツセンターで子ども向けのスポーツ教室（水泳、ダンス等年間を通したプログラム）を開いてほしい。	小平市体育協会加盟団体による長期教室として、ジュニア水泳教室や親子卓球教室、剣道教室、空手道教室、合気道教室などを実施しています。それ以外の種目についても、子ども向けの初心者教室などを開催しています。	参考意見
39	子育て家庭の抱える悩みの解消のため、妊娠期から出産、育児、子どもの育ちを、健康推進課、子育て支援課、保育課、教育委員会、その他の関係機関が連携をとることが大切と感じる。	今後整備を予定している（仮称）子育て世代包括支援センターをはじめ、妊娠から出産、子育てにわたる切れ目のない支援を行うため、子ども・子育て支援に関わる関係部署・機関のより一層の連携を図ります。	反映済み 【計画案 P.77】